

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102088
法人名	医療法人椿クリニック
事業所名	グループホームつばきの家
所在地	松山市古川北4丁目1-16
自己評価作成日	平成24年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 9 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営法人が医療機関であることから、医療と介護の連携を基本にしており、利用者の健康管理の面で安心感を持ってもらえる。又、グループの他の事業所と連携した行事(運動会、納涼祭など)を行ったり、共同で地域フォーラムを開催し、地域の人や家族に認知症や介護保険、医療・介護サービスに関する情報を発信しています。毎年、高校生や各種ボランティアを受け入れたり、定期的に近所の保育園との交流を図るなど利用者と地域との交流を深めています。又、今年より、施設のことをより知ってもらうためにブログを開設しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内は家庭的な雰囲気が感じられ、管理者と職員は理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えている。利用者の穏やかな表情からもその事がうかがえる。事業所は自治会に入り地域の行事等に参加している。つばき保育園との交流行事は利用者の楽しみとなっている。母体は医療機関であり医療面において利用者、家族共に安心感が得られている。また法人内合同で行われる納涼祭や運動会、クリスマス会等に参加することで、他の事業所の職員や利用者とも交流し、新たな馴染みも生まれている。加えて法人内で勉強会を行ったり、事業所負担で資格に関する研修を受講するなど、職員教育にも力を入れケアの質向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームつばきの家

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 田中 敦志

評価完了日 平成24年8月31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念をリビング・廊下等、見やすい所に掲示し、ミーティング等の時にも職員全員で理念の共有と行動指針を確認し、日々のケアに活かしている。	
			(外部評価) 開設時からの理念で、管理者と職員は会議等で日頃から話し合いを行って共有し、利用者の日々の暮らしを支えている。新人職員は、採用時に管理者から理念について説明を受け理解している。玄関や居間に理念を掲示し、常に目にすることができるようになっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事(祭り、納涼祭、文化祭等)に参加したり、保育園児との交流会や各種ボランティアを受け入れたりしている。又、法人全体で年2回、地域フォーラムを開催している。	
			(外部評価) 自治会に入り回覧板も回ってきており、地域の情報を得て行事に参加している。つばき保育園との交流があり、高校生、大学生のボランティアも受け入れている。月1回音楽療法のボランティアや、地域のNPO法人の方も行事等が行われる場合にはボランティアとして来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域住民、家族に対して認知症や介護保険、医療・介護のサービスに関する情報を発信するために年2回、地域フォーラムを開催している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議ではグループホームの取組みを理解してもらおうとともに様々な意見、要望を頂きサービスの向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、市や地域包括支援センターの職員、地域のNPO法人の方の参加を得て開催している。内容は事業所の活動報告や意見交換、食中毒の予防、感染症対策等の話しや、消防署の協力を得て訓練等が行われている。地域からの参加はNPO法人の方のみになっている。</p>	<p>地域に求められていることと事業所としての関わり方について、話し合いが行われることを望みたい。また、より多くの地域住民に参加してもらえるような工夫がなされることに期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議、地域フォーラムに参加してもらい、現状や工夫、疑問、相談を話している。又、各種、研修会にも参加し関係づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 市の担当者には、運営推進会議で意見を言ってもらったり、法人が主催する「地域フォーラム」にも参加してもらっている。市から案内がある研修会に参加したり、疑問点等相談しており、日頃から連携を図っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は行っていない。身体拘束等排除のためのマニュアルに基づき理解し、定期的な研修を実施することで意識の向上にも努めている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアについてマニュアルを作り、年1回は必ず勉強会を行っている。新人職員には採用時に説明し、職員全員が理解して取り組んでいる。身体拘束がやむを得ない場合は、家族と話し合い同意を得ている。現在ベッド柵を使用している利用者があるが、徐々に外していくよう検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止について常に学習している。定期的な研修を実施することで制度の理解、防止につとめている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ホーム内に資料などを用意し、利用者・家族等には必要時、制度が活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 丁寧に十分な説明を行い、納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見・不満・苦情を受け入れる体制を整えている。2カ月に一回の運営会議にて検討している。	
			(外部評価) 日頃の生活の中で利用者に希望を聞いたり、家族の訪問時に要望を聞くようにしている。運営推進会議や家族会等でも意見や要望を聞いている。普段、面会に来られない家族には月末に連絡し、利用者の状況を伝えている。利用者に変化があればその都度連絡し、意向を確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 法人内やホーム内でのミーティングにて意見、提案を聞く機会を設けている。	
			(外部評価) 管理者は毎日の申し送り時や月1回のミーティング等で職員から意見を聞いている。出された意見等が事業所で解決できない場合は、法人の代表者に管理者が提案している。希望をふまえて、職員は2～3年で法人内を異動することがある。また外部研修等で資格に関するものは事業所が費用を負担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々に評価をされ、各個人が日々向上心を持って業務に取り組めるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ミーティングでの意見交換、研修会への参加、勉強会での発表などを通じて、専門性の更なる向上を図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会などの機会をできる限り設けて、職員の更なる質の向上を図る取組みをしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に話を聞かせていただき、本人の状況把握に勤めている。又、必要な情報を全職員で共有し、同じケアができるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族等の立場に立ってこれまでの経緯などの話し合いをしっかりと行い、困っていることや要望等を確認している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 十分に話し合ってから検討し、迅速に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の大先輩として尊厳を大切にしている。本人とのかかわりの中で快、不快をすることに努め、共に過ごしているという意識と関係づくりを実践している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との交流の場を設けたり、日々の様子を報告し、本人の状態の共有に努め、一緒にサポートしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 一人一人の生活習慣の把握に努め、本人との会話の中で名前がでてきたりする方や場所は家族とも相談して、関係が続くように支援しているが不十分である。 (外部評価) 利用者それぞれに馴染みの知人や美容院等があり、情報を把握して家族の協力を得ながら支援している。入居が長い利用者によっては、今過ごしている事業所での生活が馴染みの場所となってきたりしている場合がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係にトラブルが生じないよう職員が間にはいつている。又、音楽療法、誕生日会、家族会など1、2階の交流を深める場の提供にも努め、共に暮らしを楽しめるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談、支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活のなかで快、不快などの把握に努めている。又、家族から情報を得たり、本人の視点に立って、本人がその人らしく過ごせるよう検討している。	
			(外部評価) 担当の職員を決めて、センター方式の書式を用いて利用者の思いや意向を把握している。意思疎通が困難な利用者は表情や行動等で把握することもある。一人ひとりの情報は、職員間で共有して利用者を支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの暮らしの把握はその人らしく過ごしていただくために重要であり、プライバシーに配慮しつつ、なじみの関係を築きながら、これまでの暮らしを支えていくように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常の生活での変化や発見を感じ取り全体像の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) センター方式を基本に介護計画を作成している。毎月、モニタリングを実施し、介護計画が日々の支援につながっているか職員全員で検討している。	
			(外部評価) 利用者と家族の希望や要望を聞き、全職員で話し合いを行い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い計画の実践を確認している。3か月に1回見直しを行い、年1回は計画全体を立て直すようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 24時間生活シートを活用し、日々の変化、気づきに注意し、職員全体で情報を共有化し、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者のニーズに柔軟に対応できるよう、本人が困ることがないように支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議や行事、地域フォーラム等で地域との情報交換、協力関係が築けるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体が医療機関のため、医療と介護の連携が密にとれ ており、必要に応じて他の医療機関の受診も行ってい る。	
			(外部評価) 利用者と家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。母体の医療機関をかかりつけ医にしている利 用者も多く、受診介助は職員が行っており、利用者の 状態把握ができています。緊急時でも医療連携が取れ ており、利用者、家族共に安心が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の様子を伝えるとともに気づきを相談し、看護と の連携を図り早期の発見、対応ができるように支援し ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時はこまめに情報交換、相談をし、早期に退院で きるように努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの指針を基本に事業所として、できることでき ないことを十分に説明、話し合いをした上で支援に取 り組んでいる。	
			(外部評価) 看取りの指針を作成し、入居時に事業所の方針を説明 している。利用者の状態に合わせて、家族やかかりつ け医と話し合いを行い支援している。まだ看取りの経 験はないが、看取りについての勉強会を行っており、 ターミナルケア等の研修会にも積極的に参加してい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に訓練を行い、向上に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議などで地域に協力体制を働きかけている。又、定期的に防災訓練を行い、緊急時に対応できるように努めているが地域住民との協力体制が不十分である。	
			(外部評価) 災害対策のマニュアルや緊急連絡網を作り、年2回避難訓練を行い、うち1回は夜間想定で行っている。地震想定も訓練を行い、水害時は2階に避難する等対応を検討している。近隣住民との協力体制は確立していないが、地域のNPO法人の方に協力をお願いして、備蓄を検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の尊厳を大切にし、個人の人格を尊重した声かけや対応に努めている。	
			(外部評価) 職員は、利用者の尊厳や誇りを損ねないように言葉遣いや声かけに気をつけている。職員と利用者の会話は自然であり、信頼関係を築いていることがうかがえる。入浴時等の同性介助の希望にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉だけではなく、本人の表情や反応をキャッチし、本人の思いや希望を受け止め、自己決定できるようにサポートしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の体調に応じて個別に対応できるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の意向で決めており、本人の希望に対応できるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 同じテーブルで食事したり、野菜切りや味付けのアドバイスや食前の盛りつけ、配膳、食後の片付けなども一緒に行い食への関心がもてるように支援している。	
			(外部評価) 利用者は下ごしらえ、食器洗い等自分でできることを行っている。利用者の状態に合わせて、おにぎりにしたり、刻み食、ミキサー食等工夫している。食事がゆっくりの利用者は見守りながら、介助の必要な利用者に対しては会話をしながら食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量をチェックし、個人の状態、嗜好等に合わせた工夫をすることで必要量の確保に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分でできる方はしていただき、できない方は一人ひとりに応じた介助をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンの把握、見直しを行い、失禁などの減少につなげている。又、トイレや失禁時の声かけに注意し、自尊心を傷つけないように配慮している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し支援している。紙パンツの人も昼間は布パンツにする等して、なるべくトイレでの排泄に努めている。夜間はポータブルを使用している利用者もいるが、一人ひとりに合わせた排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量の把握や調整、食材の工夫、適度に身体を動かすことにより、便秘の改善に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望や体調などに合わせてその人にあった対応をしている。最低、二日に一回は入浴している。	
			(外部評価) 2日に1回は入浴してもらえるよう支援しているが、希望に合わせて午前も午後も入浴可能で、毎日入る利用者もいる。利用者や家族の希望により、同性介助にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動量、生活リズムを整え、安眠できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服薬状況、内容を全職員が把握、理解し、状態変化の観察に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の得意なこと、できることの把握に努め、それを発揮できる場面づくりを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族等にも協力してもらい、希望にそった対応ができるように努めている。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて買い物等個別に外出支援をしている。事業所の年間の外出行事を計画している他、地域の行事に参加したり、法人内合同で行われる運動会や納涼祭、クリスマス会等へ外出できる機会を増やし、利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理ができる方には買い物の時、本人に出し入れしてもらおう。外出時などはできるだけ自分で払えるよう職員がサポートしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて電話したり、手紙を書いたりできるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に合わせた飾りや行事の写真などを展示し、暖かい雰囲気です心地よく過ごせるように工夫している。	
			(外部評価) 居間は広く窓からは明るい日差しが入り、季節に応じた飾り付けがなされて落ち着いた雰囲気がある。ソファなど利用者は思い思いの場所で自分のペースで寛いでいる。玄関や廊下など掃除が行き届き清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気に入った場所で過ごしていただけるように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いやすいものやなじみの物を持ってきてもらったり、配置などを一緒に考え、その人らしく生活できるように努めている。	
			(外部評価) 居室には、利用者が好みの物や使い慣れた物を持ち込んで、自宅にいた時のような配置にして、落ち着ける空間にしている。洗面台も備え付けられており、ポータブルトイレは木製で各所に工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 物の配置や環境整備に配慮し、不安や混乱が生じないように努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102088
法人名	医療法人椿クリニック
事業所名	グループホームつばきの家
所在地	松山市古川北4丁目1-16
自己評価作成日	平成24年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 9 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営法人が医療機関であることから、医療と介護の連携を基本にしており、利用者の健康管理の面で安心感を持ってもらえる。又、グループの他の事業所と連携した行事(運動会、納涼祭など)を行ったり、共同で地域フォーラムを開催し、地域の人や家族に認知症や介護保険、医療・介護サービスに関する情報を発信しています。毎年、高校生や各種ボランティアを受け入れたり、定期的に近所の保育園との交流を図るなど地域との交流を深めています。又、今年より、施設のことをより知ってもらうためにブログを開設しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内は家庭的な雰囲気が感じられ、管理者と職員は理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えている。利用者の穏やかな表情からもその事がうかがえる。事業所は自治会に入り地域の行事等に参加している。つばき保育園との交流行事は利用者の楽しみとなっている。母体は医療機関であり医療面において利用者、家族共に安心感が得られている。また法人内合同で行われる納涼祭や運動会、クリスマス会等に参加することで、他の事業所の職員や利用者とも交流し、新たな馴染みも生まれている。加えて法人内で勉強会を行ったり、事業所負担で資格に関する研修を受講するなど、職員教育にも力を入れケアの質向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームつばきの家

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 田中 敦志

評価完了日 平成24年8月31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念をリビング・廊下等、見やすい所に掲示し、ミーティング等の時にも職員全員で理念の共有と行動指針を確認し、日々のケアに活かしている。	
			(外部評価) 開設時からの理念で、管理者と職員は会議等で日頃から話し合いを行って共有し、利用者の日々の暮らしを支えている。新人職員は、採用時に管理者から理念について説明を受け理解している。玄関や居間に理念を掲示し、常に目にすることができるようになっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事(祭り、納涼祭、文化祭等)に参加したり、保育園児との交流会や各種ボランティアを受け入れたりしている。又、法人全体で定期的に地域フォーラムを開催している。	
			(外部評価) 自治会に入り回覧板も回ってきており、地域の情報を得て行事に参加している。つばき保育園との交流があり、高校生、大学生のボランティアも受け入れている。月1回音楽療法のボランティアや、地域のNPO法人の方も行事等が行われる場合にはボランティアとして来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域住民、家族に対して認知症や介護保険、医療・介護のサービスに関する情報を発信するために定期的に地域フォーラムを開催している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議ではグループホームの取組みを理解してもらおうとともに様々な意見、要望を頂きサービスの向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、市や地域包括支援センターの職員、地域のNPO法人の方の参加を得て開催している。内容は事業所の活動報告や意見交換、食中毒の予防、感染症対策等の話しや、消防署の協力を得て訓練等が行われている。地域からの参加はNPO法人の方のみになっている。</p>	<p>地域に求められていることと事業所としての関わり方について、話し合いが行われることを望みたい。また、より多くの地域住民に参加してもらえるような工夫がなされることに期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議、地域フォーラム等に参加してもらい、現状や工夫、疑問、相談を話している。又、各種、研修会にも参加し関係づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 市の担当者には、運営推進会議で意見を言ってもらったり、法人が主催する「地域フォーラム」にも参加してもらっている。市から案内がある研修会に参加したり、疑問点等相談しており、日頃から連携を図っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は行っていない。身体拘束等排除のためのマニュアルに基づき理解し、定期的な研修を実施することで意識の向上にも努めている。ただし、夜間の不穏、体動が激しく転落の危険性の高い入居者の場合、家族同意のもとベッド柵を使用している。必要なくなればはずしていく。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアについてマニュアルを作り、年1回は必ず勉強会を行っている。新人職員には採用時に説明し、職員全員が理解して取り組んでいる。身体拘束がやむを得ない場合は、家族と話し合い同意を得ている。現在ベッド柵を使用している利用者があるが、徐々に外していくよう検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止について常に学習している。定期的な研修を実施することで制度の理解、防止につとめている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度について定期的に学習している。ホーム内に資料などを用意し、利用者・家族等には必要時、制度が活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 丁寧に十分な説明を行い、納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見・不満・苦情を受け入れる体制を整えている。2カ月に一回の運営会議にて検討している。	
			(外部評価) 日頃の生活の中で利用者に希望を聞いたり、家族の訪問時に要望を聞くようにしている。運営推進会議や家族会等でも意見や要望を聞いている。普段、面会に来られない家族には月末に連絡し、利用者の状況を伝えている。利用者に変化があればその都度連絡し、意向を確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 法人内やホーム内でのミーティングにて意見、提案を聞く機会を設けている。	
			(外部評価) 管理者は毎日の申し送り時や月1回のミーティング等で職員から意見を聞いている。出された意見等が事業所で解決できない場合は、法人の代表者に管理者が提案している。希望をふまえて、職員は2～3年で法人内を異動することがある。また外部研修等で資格に関するものは事業所が費用を負担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個人個人が日々向上心を持って業務に取り組めるような環境づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ミーティングでの意見交換、研修会への参加、勉強会での発表などを通じて、専門性の更なる向上を図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会などの機会をできる限り設けて、職員の更なる質の向上を図る取組みをしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に話を聞かせていただき、本人の状況把握に努めています。又、必要な情報を全職員で共有し、同じケアができるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族等の立場に立ってこれまでの経緯などの話し合いをしっかりと行い、困っていることや要望等を確認している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 十分に話し合って検討し、迅速かつ柔軟な対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人との関わりの中で日常の会話に耳を傾け喜怒哀楽を知るように努め共に過ごしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との交流の場を設けたり、日々の様子を報告し、本人の状態の共有に努め、一緒にサポートしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 一人一人の生活習慣の把握に努め、本人との会話の中で名前がでてきたりする方や場所は家族とも相談して、関係が続くように支援している。 (外部評価) 利用者それぞれに馴染みの知人や美容院等があり、情報を把握して家族の協力を得ながら支援している。入居が長い利用者によっては、今過ごしている事業所での生活が馴染みの場所となってきたりしている場合がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係にトラブルが生じないよう職員が間にはいっています。音楽療法、行事など1、2階の交流を深める場の提供にも努め、共に暮らしを楽しめるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談、支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活のなかで快、不快などの把握に努めています。又、家族から情報を得たり、本人の視点に立って、本人がその人らしく過ごせるよう検討しているが十分ではない。	
			(外部評価) 担当の職員を決めて、センター方式の書式を用いて利用者の思いや意向を把握している。意思疎通が困難な利用者は表情や行動等で把握することもある。一人ひとりの情報は、職員間で共有して利用者を支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの暮らしの把握はその人らしく過ごしていただくために重要であり、プライバシーに配慮しつつ、なじみの関係を築きながら、これまでの暮らしを支えていくように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常の生活での変化や発見を感じ取り全体像の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) センター方式を基本に介護計画を作成している。毎月、モニタリングを実施し、介護計画が日々の支援につながっているか職員全員で検討している。	
			(外部評価) 利用者と家族の希望や要望を聞き、全職員で話し合いを行い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い計画の実践を確認している。3か月に1回見直しを行い、年1回は計画全体を立て直すようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 24時間生活シートを活用し、日々の変化、気づきに注意し、職員全体で情報を共有化し、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者のニーズに柔軟に対応できるよう、本人が困ることがないように支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議や行事、地域フォーラム等で地域との情報交換、協力関係が築けるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体が医療機関のため、医療と介護の連携が密にとれ ており、必要に応じて他の医療機関の受診も行ってい る。	
			(外部評価) 利用者と家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。母体の医療機関をかかりつけ医にしている利 用者も多く、受診介助は職員が行っており、利用者の 状態把握ができています。緊急時でも医療連携が取れ ており、利用者、家族共に安心が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の様子を伝えるとともに気づきを相談し、看護と の連携を図り早期の発見、対応ができるように支援し ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時はこまめに情報交換、相談をし、早期に退院で きるように努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの指針を基本に事業所として、できることでき ないことを十分に説明、話し合いをした上で支援に取 り組んでいる。	
			(外部評価) 看取りの指針を作成し、入居時に事業所の方針を説明 している。利用者の状態に合わせて、家族やかかりつ け医と話し合いを行い支援している。まだ看取りの経 験はないが、看取りについての勉強会を行っており、 ターミナルケア等の研修会にも積極的に参加してい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に訓練を行い、向上に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議などで地域に協力体制を働きかけています。又、定期的に防災訓練を行い、緊急時に対応できるように努めているが地域と連携は不十分である。 (外部評価) 災害対策のマニュアルや緊急連絡網を作り、年2回避難訓練を行い、うち1回は夜間想定で行っている。地震想定も訓練を行い、水害時は2階に避難する等対応を検討している。近隣住民との協力体制は確立していないが、地域のNPO法人の方に協力をお願いして、備蓄を検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々を尊重した言葉かけや態度で接し、利用者の誇りを損なわないように対応している。 (外部評価) 職員は、利用者の尊厳や誇りを損ねないように言葉遣いや声かけに気をつけている。職員と利用者の会話は自然であり、信頼関係を築いていることがうかがえる。入浴時等の同性介助の希望にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉だけではなく、本人の表情や反応をキャッチし、本人の思いや希望を受け止め、自己決定できるようにサポートしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の体調や気分に応じて利用者個人ごとに対応できるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員が決めるのではなく、利用者に選択肢を与え対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者から食べたい物や季節物を聞きそれをメニューに取り込んだり、一緒に食事しながら食に対して関心がもてるようにしている。	
			(外部評価) 利用者は下ごしらえ、食器洗い等自分でできることを行っている。利用者の状態に合わせて、おにぎりにしたり、刻み食、ミキサー食等工夫している。食事がゆっくりの利用者は見守りながら、介助の必要な利用者に対しては会話をしながら食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量をチェックし、個人の状態、嗜好等に合わせ工夫をすることで必要量の確保に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分でできる方はしていただき、できない方は一人ひとりに応じた介助をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンの把握、見直しを行い、失禁などの減少につなげている。トイレや失禁時の声かけに注意し、自尊心を傷つけないように配慮している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し支援している。紙パンツの人も昼間は布パンツにする等して、なるべくトイレでの排泄に努めている。夜間はポータブルを使用している利用者もいるが、一人ひとりに合わせた排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量の把握や調整、食材の工夫、適度に身体を動かすことにより、便秘の改善に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望や体調などに合わせてその人にあった対応をしている。	
			(外部評価) 2日に1回は入浴してもらえるよう支援しているが、希望に合わせて午前も午後も入浴可能で、毎日入る利用者もいる。利用者や家族の希望により、同性介助にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動量、生活リズムを整え、安眠できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服薬状況、内容を全職員が把握、理解し、状態変化の観察に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の得意なこと、できることの把握に努め、それを発揮できる場面づくりを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族等にも協力してもらい、希望にそった対応ができるように努めている。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて買い物等個別に外出支援をしている。事業所の年間の外出行事を計画している他、地域の行事に参加したり、法人内合同で行われる運動会や納涼祭、クリスマス会等へ外出できる機会を増やし、利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理ができる方には買い物の時、本人に出し入れしてもらおう。外出時などはできるだけ自分で払えるよう職員がサポートしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 周囲に気がねなく電話したり、手紙を書いたりできるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に合わせた飾りや行事の写真などを展示し、暖かい雰囲気です心地よく過ごせるように工夫している。	
			(外部評価) 居間は広く窓からは明るい日差しが入り、季節に応じた飾り付けがなされて落ち着いた雰囲気がある。ソファなど利用者は思い思いの場所で自分のペースで寛いでいる。玄関や廊下など掃除が行き届き清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気に入った場所で過ごしていただけるように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いやすいものやなじみの物を持ってきてもらったり、配置などを一緒に考え、その人らしく生活できるように努めている。	
			(外部評価) 居室には、利用者が好みの物や使い慣れた物を持ち込んで、自宅にいた時のような配置にして、落ち着ける空間にしている。洗面台も備え付けられており、ポータブルトイレは木製で各所に工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 物の配置や環境整備に配慮し、不安や混乱が生じないように努めている。	